

第1章

高齢化の状況

第1節 高齢化の状況

高齢化の現状と将来像

○高齢化率は27.3%

- ・我が国の総人口は平成28（2016）年10月1日現在、1億2,693万人（表1-1-1）。
- ・65歳以上の高齢者人口は3,459万人。
- ・65歳以上を男女別にみると、男性は1,500万人、女性は1,959万人で、性比（女性人口100人に対する男性人口）は76.6。
- ・総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は27.3%。
- ・「65～74歳人口」（前期高齢者）は1,768万人、総人口に占める割合は13.9%。
- ・「75歳以上人口」（後期高齢者）は1,691万人、総人口に占める割合は13.3%。

表1-1-1 高齢化の現状

単位：万人（人口）、%（構成比）

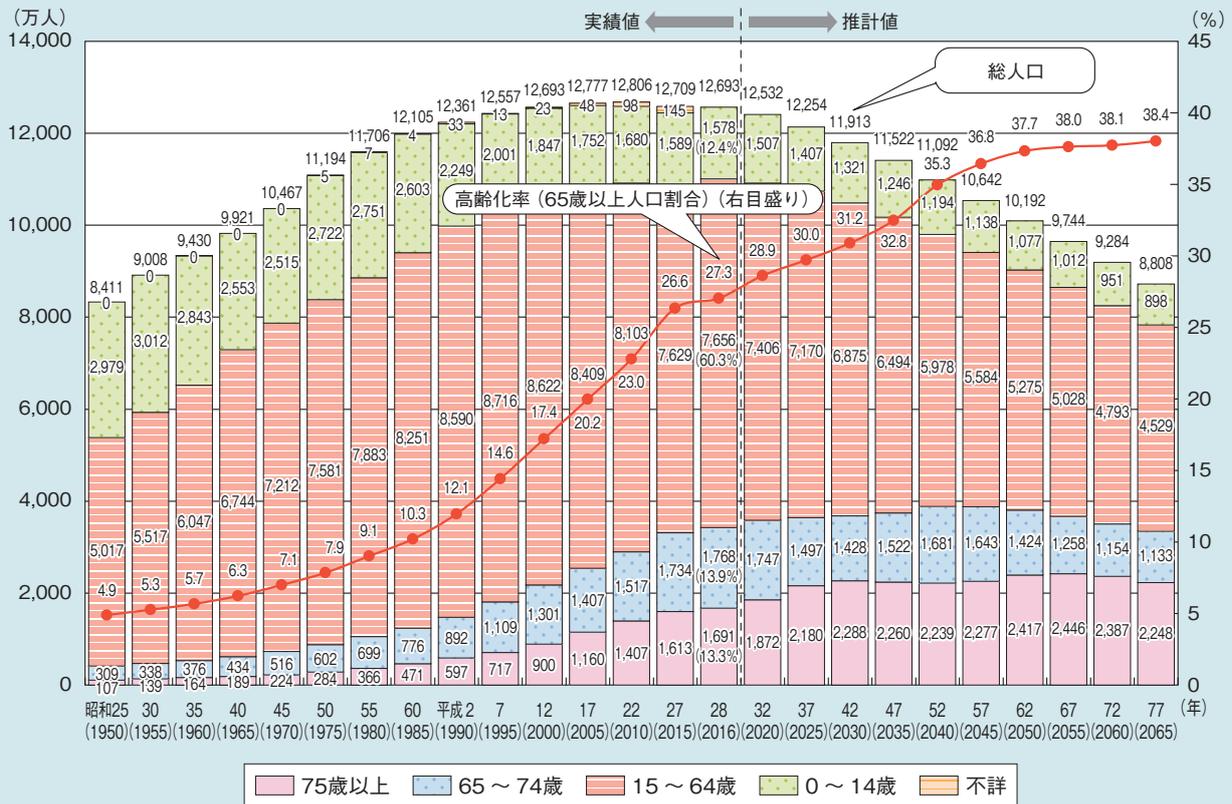
		総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,693	6,177 (性比) 94.8	6,517
	高齢者人口(65歳以上)	3,459	1,500 (性比) 76.6	1,959
	65～74歳人口	1,768	842 (性比) 91.0	926
	75歳以上人口	1,691	658 (性比) 63.6	1,033
	生産年齢人口(15～64歳)	7,656	3,869 (性比) 102.1	3,788
	年少人口(0～14歳)	1,578	808 (性比) 104.9	770
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0
	高齢者人口(高齢化率)	27.3	24.3	30.1
	65～74歳人口	13.9	13.6	14.2
	75歳以上人口	13.3	10.6	15.9
	生産年齢人口	60.3	62.6	58.1
	年少人口	12.4	13.1	11.8

資料：総務省「人口推計」平成28年10月1日（確定値）
 (注)「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

○平成77（2065）年には、約2.6人に1人が65歳以上、約4人に1人が75歳以上

- ・総人口が減少するなかで、高齢化率は上昇（図1-1-2）。
- ・高齢者人口は、いわゆる「団塊の世代」（昭和22（1947）～24（1949）年に生まれた人）が65歳以上となった平成27（2015）年には3,387万人となり、その後も増加傾向。54（2042）年に3,935万人でピークを迎え、その後は減少に転じるが高齢化率は上昇傾向にあると推計される。
- ・平成77（2065）年には高齢化率は38.4%に達し、約2.6人に1人が65歳以上。
- ・平成77（2065）年には75歳以上人口が総人口の25.5%となり約4人に1人が75歳以上。
- ・5年前（平成24年）の推計と比較すると、人口減少の速度（2060年推計人口について、今回推計では9,284万人、前回推計では8,674万人）や高齢化の進行度合い（2060年高齢化率の推計について、今回推計では38.1%、前回推計では39.9%）は緩和している。

図1-1-2 高齢化の推移と将来推計

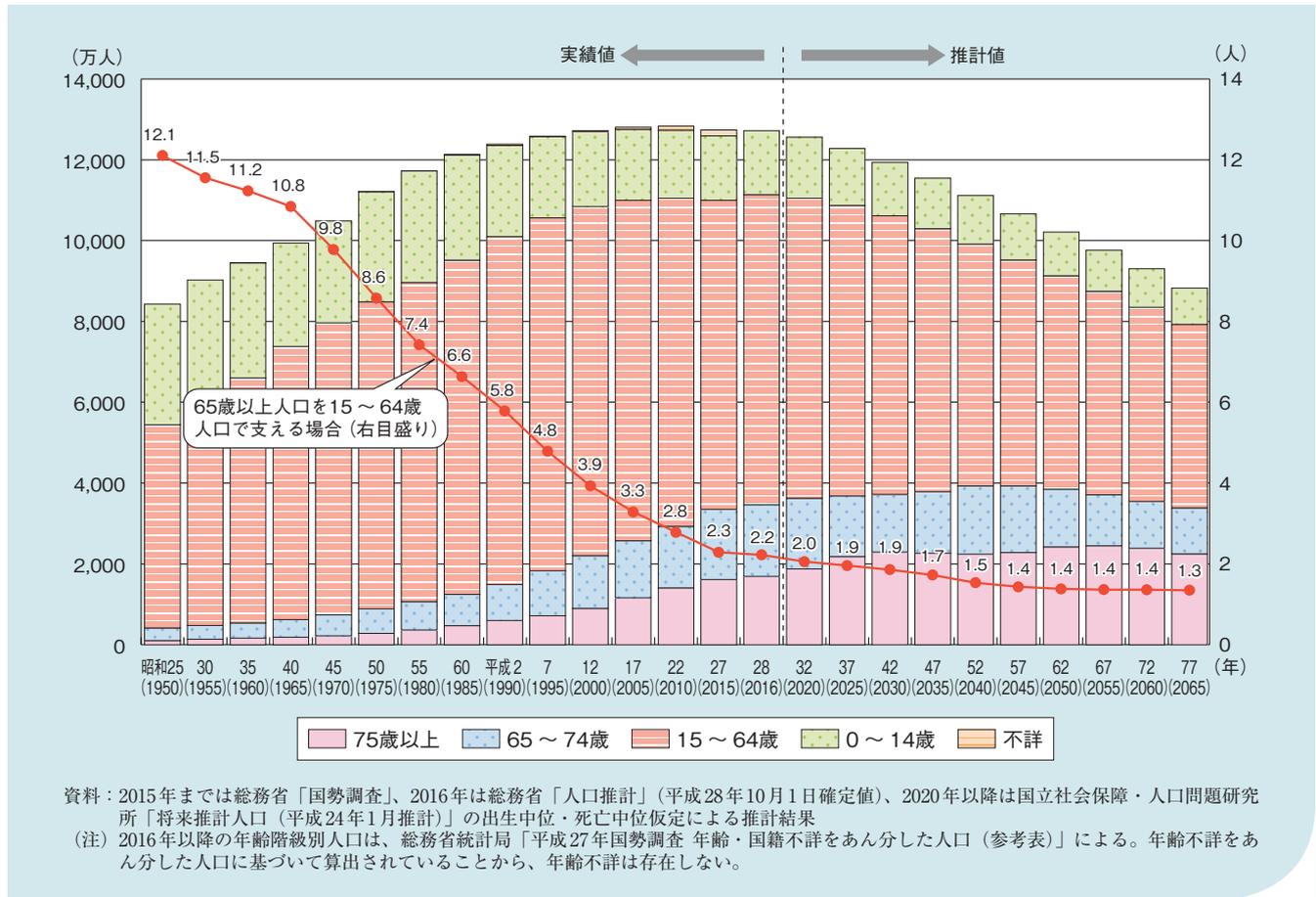


資料：2015年までは総務省「国勢調査」、2016年は総務省「人口推計」（平成28年10月1日確定値）、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果
 (注) 2016年以降の年齢階級別人口は、総務省統計局「平成27年国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口（参考表）」による。年齢不詳をあん分した人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。なお、1950年～2015年の高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

○現役世代 1.3人で1人の高齢者を支える社会の到来

- ・平成27（2015）年には、高齢者1人に対して現役世代（15～64歳）2.3人（図1-1-3）。
- ・平成77（2065）年には、高齢者1人に対して現役世代（15～64歳）1.3人。

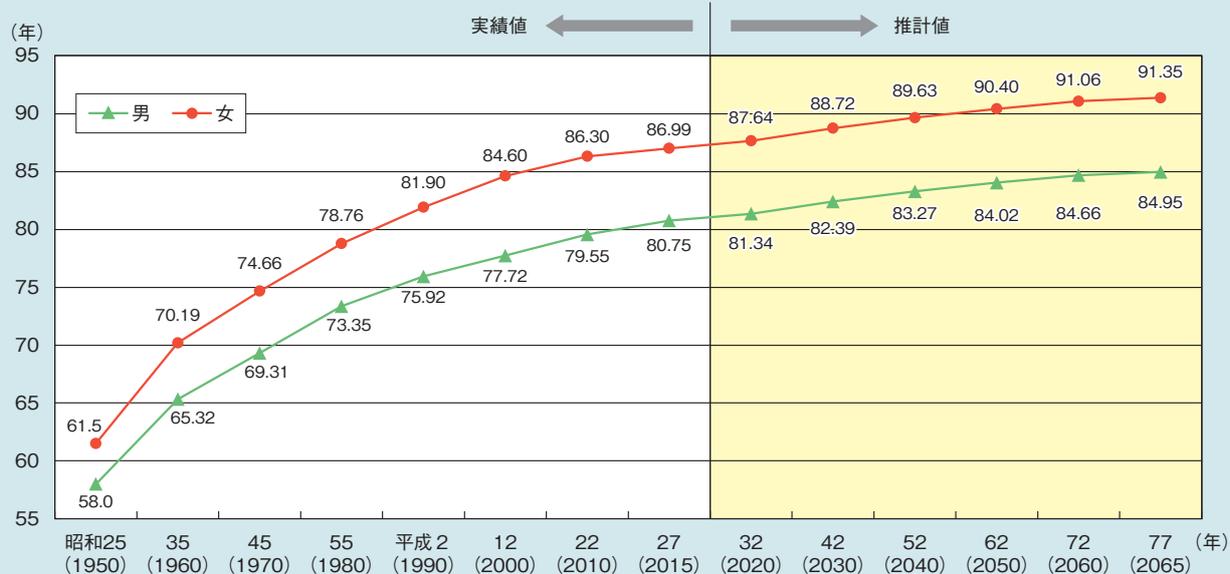
図1-1-3 高齢世代人口の比率



○将来の平均寿命は男性84.95年、女性91.35年

- ・平均寿命は、平成27（2015）年現在、男性80.75年、女性86.99年（図1-1-4）。
- ・平成77（2065）年には、男性84.95年、女性91.35年となり、女性の平均寿命は90年を超える。

図1-1-4 平均寿命の推移と将来推計



資料：1950年は厚生労働省「簡易生命表」、1960年から2015年までは厚生労働省「完全生命表」、2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果
 (注) 1970年以前は沖縄県を除く値である。0歳の平均余命が「平均寿命」である。

○地域別にみた高齢化

- ・平成27（2015）年現在の高齢化率は、最も高い秋田県で33.8%、最も低い沖縄県で19.6%となっている（表1-1-5）。

表1-1-5 都道府県別高齢化率の推移

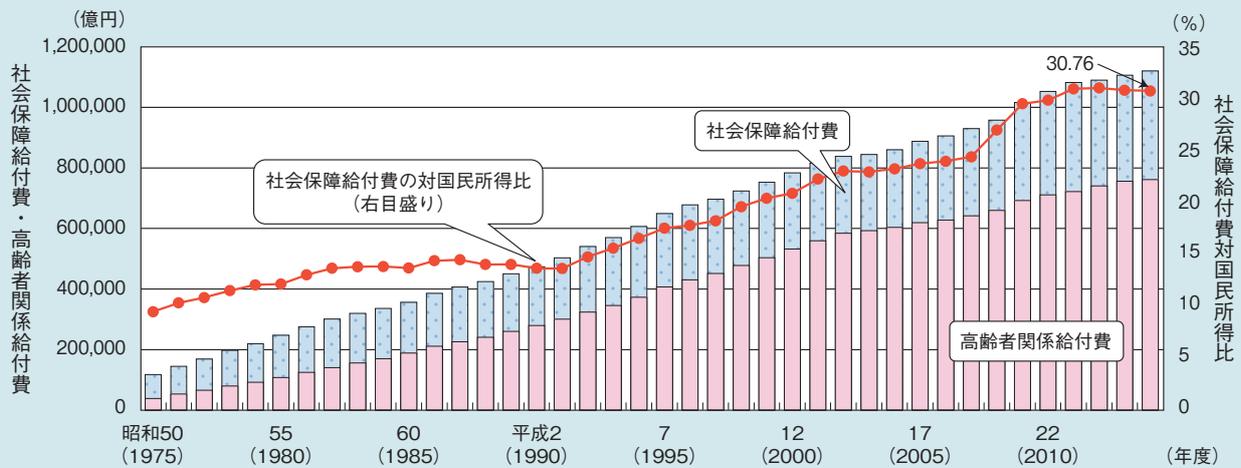
	平成27年 (2015)			平成52年 (2040)	高齢化率の伸び (ポイント)
	総人口(千人)	65歳以上 人口(千人)	高齢化率(%)	高齢化率(%)	
北海道	5,382	1,558	29.1	40.7	11.6
青森県	1,308	391	30.1	41.5	11.4
岩手県	1,280	387	30.4	39.7	9.3
宮城県	2,334	588	25.7	36.2	10.5
秋田県	1,023	343	33.8	43.8	10.0
山形県	1,124	344	30.8	39.3	8.5
福島県	1,914	542	28.7	39.3	10.6
茨城県	2,917	772	26.8	36.4	9.6
栃木県	1,974	508	25.9	36.3	10.4
群馬県	1,973	540	27.6	36.6	9.0
埼玉県	7,267	1,789	24.8	34.9	10.1
千葉県	6,223	1,584	25.9	36.5	10.6
東京都	13,515	3,006	22.7	33.5	10.8
神奈川県	9,126	2,158	23.9	35.0	11.1
新潟県	2,304	685	29.9	38.7	8.8
富山県	1,066	323	30.5	38.4	7.9
石川県	1,154	317	27.9	36.0	8.1
福井県	787	222	28.6	37.5	8.9
山梨県	835	235	28.4	38.8	10.4
長野県	2,099	626	30.1	38.4	8.3
岐阜県	2,032	568	28.1	36.2	8.1
静岡県	3,700	1,021	27.8	37.0	9.2
愛知県	7,483	1,761	23.8	32.4	8.6
三重県	1,816	501	27.9	36.0	8.1
滋賀県	1,413	338	24.2	32.8	8.6
京都府	2,610	703	27.5	36.4	8.9
大阪府	8,839	2,278	26.1	36.0	9.9
兵庫県	5,535	1,482	27.1	36.4	9.3
奈良県	1,364	389	28.7	38.1	9.4
和歌山県	964	296	30.9	39.9	9.0
鳥取県	573	169	29.7	38.2	8.5
島根県	694	223	32.5	39.1	6.6
岡山県	1,922	541	28.7	34.8	6.1
広島県	2,844	774	27.5	36.1	8.6
山口県	1,405	448	32.1	38.3	6.2
徳島県	756	231	31.0	40.2	9.2
香川県	976	286	29.9	37.9	8.0
愛媛県	1,385	417	30.6	38.7	8.1
高知県	728	237	32.8	40.9	8.1
福岡県	5,102	1,305	25.9	35.3	9.4
佐賀県	833	229	27.7	35.5	7.8
長崎県	1,377	405	29.6	39.3	9.7
熊本県	1,786	511	28.8	36.4	7.6
大分県	1,166	352	30.4	36.7	6.3
宮崎県	1,104	323	29.5	37.0	7.5
鹿児島県	1,648	480	29.4	37.5	8.1
沖縄県	1,434	278	19.6	30.3	10.7

資料：平成27年は総務省「国勢調査」、平成52年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

○過去最高となった社会保障給付費

- ・ 社会保障給付費全体について、平成26（2014）年度は112兆1,020億円となり過去最高の水準（図1-1-6）。
- ・ 国民所得に占める割合は、30.76%（前年比0.07ポイント減）。
- ・ 社会保障給付費のうち、高齢者関係給付費について、平成26（2014）年度は76兆1,383億円、社会保障給付費に占める割合は67.9%。

図1-1-6 社会保障給付費の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「平成26年度社会保障費用統計」

(注1) 高年齢者関係給付費とは、年金保険給付費、高齢者医療給付費、老人福祉サービス給付費及び高年齢雇用継続給付費を合わせたもの。

(注2) 高齢者医療給付費には、平成19年度までは旧老人保健制度からの医療給付額、平成20年度は後期高齢者医療制度からの医療給付額及び旧老人保健制度からの平成20年3月分の医療給付額等が含まれている。

○我が国は世界で最も高い高齢化率である

- ・先進諸国の高齢化率と比較すると、我が国は、1980年代までは下位、90年代にはほぼ中位であったが、平成17（2005）年には最も高い水準となった（図1-1-7）。
- ・高齢化の速度について、高齢化率が7%を超えてからその倍の14%に達するまでの所要年数（倍加年数）によって比較すると、我が国の高齢化率は、昭和45（1970）年に7%を超えると、その24年後の平成6（1994）年には14%に達した。しかし、足元ではその伸率は鈍化している。一方、アジア諸国に目を移すと、韓国が18年、シンガポールが20年、中国が23年など、今後、一部の国で、我が国を上回るスピードで高齢化が進むことが見込まれている（図1-1-8）。

図1-1-7 世界の高齢化率の推移

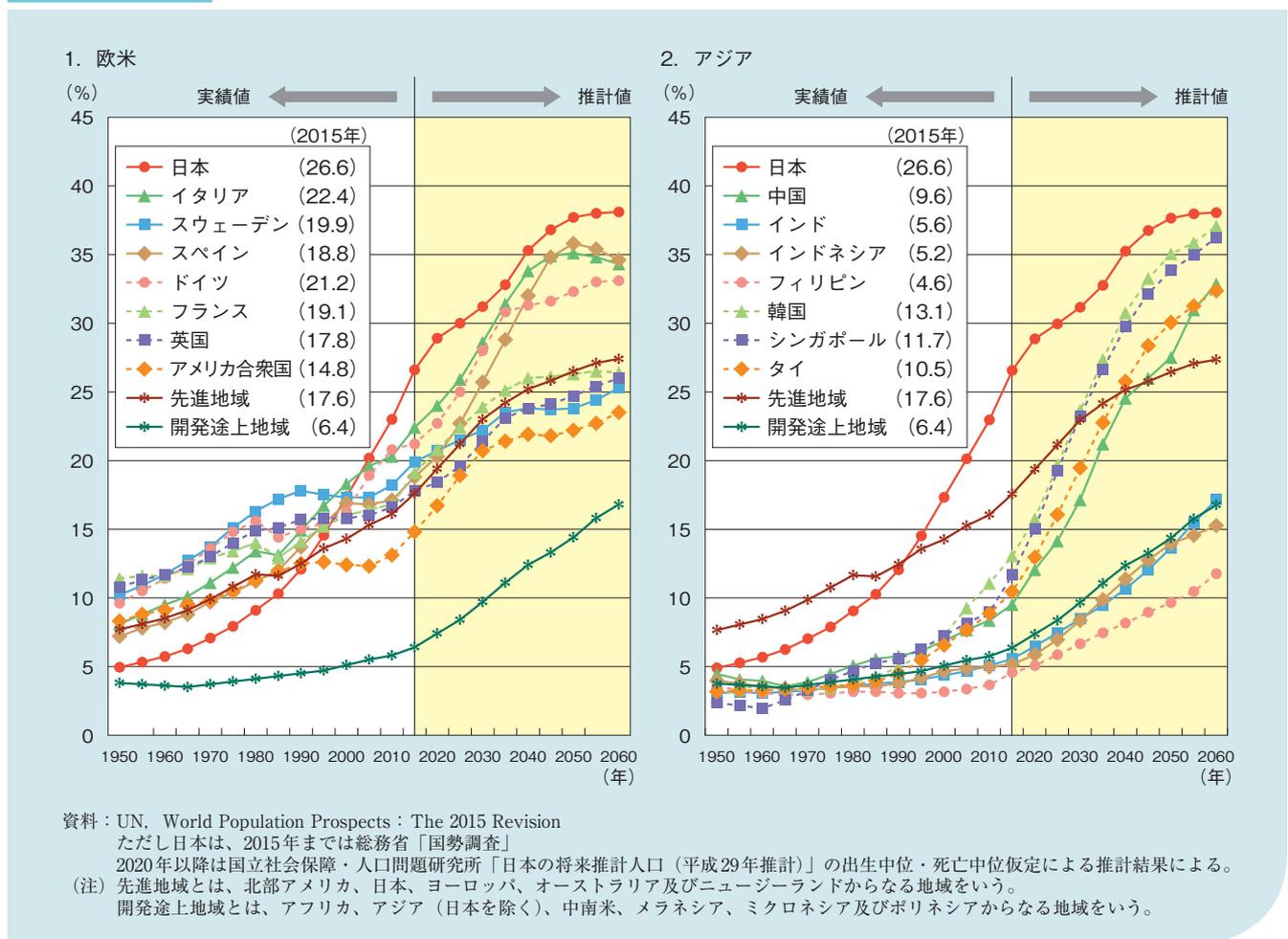
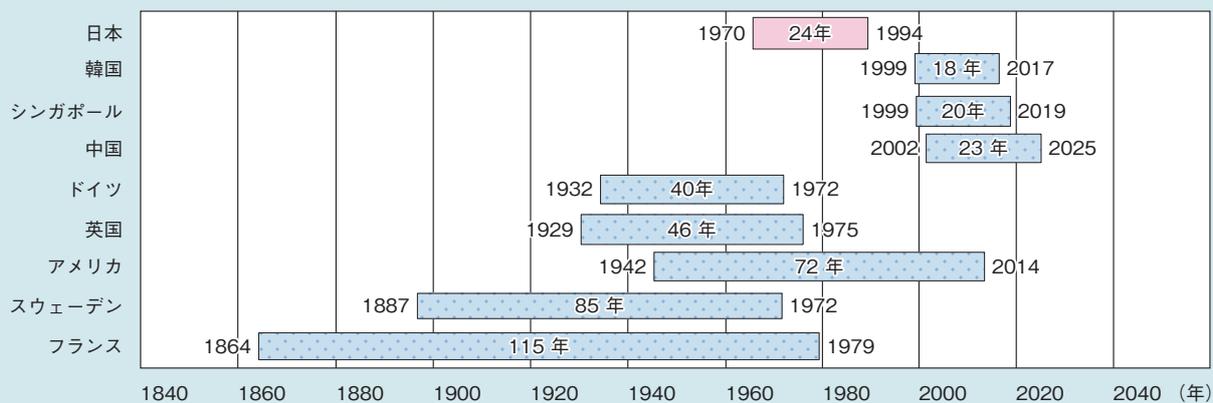


図1-1-8 主要国における高齢化率が7%から14%へ要した期間



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」(2016年)

(注) 1950年以前はUN, The Aging of Population and Its Economic and Social Implications (Population Studies, No.26, 1956) 及び Demographic Yearbook, 1950年以降はUN, World Population Prospects: The 2015 Revision (中位推計) による。ただし、日本は総務省統計局「国勢調査」、「人口推計」による。1950年以前は既知年次のデータを基に補間推計したものである。